

◆加藤潤子 選 ～自句自賛～

節電の結果が風邪をひくことに

節電しなくてはと思っ、ぎりぎりまで暖房器具を使わないようにしていたら、風邪をひいて逆に薬代がかかってしまいました。ギリギリの気温で過ごそうとする習慣をなかなか変えられません。

ドレスの下にスパッツ婆シャツホッカイロ

私はジャズシンガーとして仕事をしていて、舞台に立つときは衣装を着ます。寒い時期に首や肩が出るドレスで出演する時は、ドレスの下はしっかり温めようと、ヒートテックを着てカイロを二、三個貼り、さらにはスパッツやズボンをはいています。冬季の舞台の裏事情を俳句にしました。

パンケーキ焼く研究室のストーブで

大学生の頃、大学の研究室のストーブでパンケーキを焼いて学生にふるまってくださる先生がいらっしゃいました。焼けるのに時間がかかるのですが、いい匂いがしだいに漂ってきて、寒い日の夕方にストーブを囲んで、研究室でみんなでいただきました。学生時代の楽しい思い出です。

どっしりと体重をのせ餅を切る

硬い餅を切る大変さを俳句に詠みました。毎年正月は、母の田舎で作った餅（鏡餅やのし餅）をもらって切り分ける作業があります。作って数日が経ち、硬くなった餅を切るのは大変で、（正月太りの）体重をかけて切るので手が痛くなりますが、美味しいので頑張っって切っています！

母起きる子どもの小さな咳ひとつに

テレビもつけっぱなしの中、こたつで寝ていた母のそばで軽い咳を一つしたところ、母ががばっと起きて「大丈夫？」と言ったことがありました。母は普

段からいつでもどこでも寝られて、テレビの大きな音がしても起きません。なのに、子どもの咳には反応して飛び起きたものですから、すごい母性本能だ！と思ったのです。

頂いた手編みセーターまだ着れぬ

友達が、手編みのセーターと手袋と帽子を作ってくれたことがありました。当時は嬉しいのと、もったいないのとでなかなか着られず、結局、しまい込んで三十年近く経ってしまいました。

ぶかぶかのコートに埋もれて赤いほほ

姪の登校に付き添い、楽しくおしゃべりしながら歩いたことがあったのですが、途中寒くなったので私の上着（ダウンジャケット）を着せました。姪は気に入らしく、「これで学校に行く」と言ってそのまま校舎に入って行きました。お婆さんのぶかぶかの古い上着を気にせず着ていった姪の後ろ姿が愛おしかった思い出の一句です。（伯母馬鹿ですね！）。

諳んじた七種聞いてるおなかの子

美容院で、いつも担当していただいている美容師さんと七草粥の話になりました。私は毎年、七草粥を食べ忘れるし、七草を覚えてもいないと話すと、私よりずっと若い美容師さんが「私は、毎年、七草粥を作りますし、七草も言えますよ。セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ…」と言い始めたので、びっくりしました。その美容師さんは出産前でしたが、いいお母さんになるなあと思っただけでした。

蒲団出る朝一番の気合い入れ

寒い朝は起きるのがおっくうで、あたたかい蒲団から出るのに、ものすごく勇気がいる感じがします。「ううううううう…よし!!!」と自分で自分に気合を入れないと、なかなか出られません。

飲兵衛に待ったをかけるコロナ風邪

父は風邪をひいても晩酌をやめない人で、先日もやめた方がいいと家族が言うのに、咳をしながらビールを飲んでいました(私には全く理解不能です!)。が、翌日コロナ陽性と診断され、体調もさすがにきつくなったようで、珍しくビールを控えていました。コロナの症状はやっぱり違うな、と思いました。お酒を飲めるか飲めないかが、父の健康のバロメーターです。

煮凝の敵はレンジのチンだった

煮物の残り物が、翌日煮凝りになっていました。煮凝りが好きな父が喜ぶだろうと思いながら、食卓に出す前に、うっかりレンジで温めてしまいました。煮凝りは溶けて、ただの煮汁になってしまいました。父は「煮凝りがなくなってるじゃないか!」と不満を言いました。そして、私は忘れた頃に、また同じ失敗を繰り返しているのです。